

# 令和5年度 奈良県立奈良商工高等学校（全日制課程） 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	地域社会に貢献できるものづくりとビジネスのスペシャリストの養成
年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会の様々な変化や多様な課題に対応することのできる力を育成する。</li> <li>2 工学系とビジネス系等に関する基礎的、基本的な知識や技術・技能を育成する。</li> <li>3 規範意識と社会の一員としての自覚をもたせる。</li> <li>4 目的意識をもち、協働的に粘り強く取り組むことができる精神力や体力、協調性を養う。</li> </ol>

## 1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>本校では、入学者選抜を経て、以下のような生徒を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の学科の特色を理解し、明確な進路目標を掲げて高校生活を送ることができる生徒</li> <li>2 本校志望の意志が強く、社会の変化に対応できるよう主体的に学習に取り組み、学校行事、部活動、地域交流等に積極的に参加し、常に自らを高め、「目標」に向かって努力する生徒</li> <li>3 ものづくりや科学技術に関心をもち、工業に関する知識・技能の習得と資格取得に積極的にチャレンジする生徒</li> <li>4 ビジネス社会に関心をもち、ビジネス活動に必要な資格の取得に向けて一生懸命に努力することのできる生徒</li> </ol>
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>本校では、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と多様に変化する社会に主体的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒会活動、部活動、ボランティア活動を通して、他者と協働する力を育成します。</li> <li>2 就職や進学に対応した柔軟な科目選択や少人数指導を行います。</li> <li>3 実社会で役立つ資格を取得し、社会に貢献できる専門力を育成します。</li> <li>4 最先端の機器を活用して、ものづくりやビジネスに関する実験・実習を行います。</li> <li>5 大学や専門学校、企業等と連携した高度な授業や技術講演会を実施します。</li> </ol>
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>本校では、以下の資質・能力を身に付け、74単位以上の単位数を修得した生徒に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間尊重の精神に徹し、自他の価値を認め合い、他者と協働しながら自分を成長させることができる。</li> <li>2 将来にわたり、高い志をもち、自から学び、自ら考え、社会の変化に柔軟に対応することができる。</li> <li>3 主体的に行動し、地域社会の中核として活躍することができる。</li> <li>4 専門的知識と確かな技術を習得し、工業や商業の発展に寄与することができる。</li> </ol>

## 2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

A 目標を大きく上回っている B おおむね目標を上回っている C 目標に達していない

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末目標値等	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	体力・運動能力・運動意欲の向上	運動部・文化部加入率の向上	●運動部・文化部加入率（前年度比5 <sup>割</sup> 増）	3年生の引退等あり、年度末調査は実施せず。先生方の協力をいただき、生徒のモチベーション維持により活発な活動は継続されている。	A	部活動に参加している生徒（運動部）においてはほぼ毎日の運動習慣が付いている。しかし、それ以外の生徒においては、体育・保健の授業においてその必要性和実践方法をつないだ授業展開を心がけ、運動習慣を身に付けさせることが必要。あわせて、継続して部活動に積極的に参加する生徒の人数を維持・向上するために生徒のモチベーション向上を図る。  体育系部活動が活発に活動しており、多くの生徒が参加している。健康増進の観点からも、望ましい状況である。また、挨拶をする習慣が定着している。朝食を毎日食べている生徒の割合が低いことが気になる。継続して食育指導をしていただきたい。  挨拶に関しては、教員の方からも生徒に声掛けをすることによって、習慣化されている。遅刻については、時間を守ることの大切さを、継続して生徒の心に訴えていく。  保健体育の授業をはじめ、IB、保健だより、ポスター等で、毎朝の朝食から始まる食事の大切さを改めて考え直す機会をつくる。また、基本的な生活習慣を身に付けさせ、体調を整えることで保健室利用生徒を減らしていく。	
		定期的な運動習慣がある・運動が好きな生徒等の割合増加	●定期的な運動習慣がある・運動が好きな生徒等の割合（アンケート70 <sup>割</sup> 以上）	アンケートの結果、毎日運動を実施している34.6%、ときどき実施している39.5%で合わせて74.1%の生徒が運動することに興味を持っている。	B		
	基本的な生活習慣の確立	あいさつの励行	●あいさつの励行（アンケート90 <sup>割</sup> 以上）	生徒アンケートの結果、挨拶を「積極的にしている」「している」と答えた生徒の合計は97%であった。	A		
		遅刻数の減少	●遅刻数の減少（前年度比5 <sup>割</sup> 減）	遅刻者は、昨年度と比べて、0.02%減少した程度であった。基本的な生活習慣を身に付けるよう、継続した取組が必要である。	C		
	食育の推進	朝食を毎日食べている生徒の割合	●朝食を毎日食べている生徒の割合（アンケート90 <sup>割</sup> 以上）	アンケートの結果、朝食を毎日食べている生徒は62.3%であった。	C		
		食生活の大切さを理解している生徒の割合	●食生活の大切さを理解している生徒の割合（アンケート90 <sup>割</sup> 以上）	アンケートの結果、86.1%の生徒が食生活が大切であると思っている。	B		
	健康維持	体調不良等による保健室への来室数	●体調不良等による保健室への来室数前年度比5%減。	保健室利用マナーもよく、けじめある保健室経営ができた。保健室利用率は、昨年度より15%減っている。	A		
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	アクティブラーニングの実践	アクティブラーニングによる課題研究の推進（授業満足度）	●アクティブラーニングによる授業・探究・課題研究の推進（アンケート80 <sup>割</sup> 以上）	二期授業アンケートの集約で、総合的に言って、この授業に満足しているかの質問に対し、87.0%の生徒が、そう思う、だいたいそう思うと回答しており、一学期よりわずかではあるが満足している生徒が増えている。	A	ICTを有効活用しており、生徒の興味関心を高めるのに役立っている。各学科においても、専門性を高めるための工夫がされており、生徒が主体的に活動できている。  令和6年度2学期以降は全学年の教室に電子黒板が設置される予定である。ICTの活用においても、年々工夫を重ねている。今後、教材の共有化等を進め、さらに効果的な学習活動になるよう、研鑽していく。  超過勤務は減少している。今後一層、業務内容を精選する。	
	ICTを活用した授業の充実	生徒のICT機器活用力の向上、ICT機器を活用した授業の生徒評価（授業満足度）	●生徒のICT機器活用力の向上、ICT機器を活用した授業の生徒評価（アンケート80 <sup>割</sup> 以上）	二期授業アンケートの集約で、わかりやすい授業となるようICT機器を活用したり、板書や教材を工夫しているかの質問に対し、80.8%の生徒が、そう思う、だいたいそう思うと回答しており、一学期より約5%増えている。	A		
	教員の働き方改革	教員の1月の超過勤務時間数削減（3か月連続45時間超過者数）	●教員の1か月の超過勤務時間数削減（3か月連続45時間超過者数0）	年間延べ80名が超過勤務時間45時間を超えていた。3ヶ月連続して45時間を超えた職員は0人だった。	A		

3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア教育の推進	2年生インターンシップ・デュアルシステム参加生徒数	●インターンシップ・デュアルシステム参加生徒数（在学中参加70%以上）	2年生の在籍が302名で、夏休み中のインターンシップ参加者が53名、冬休み中のインターンシップ参加者が12名であった。冬休み中のインターンシップには1年生が9名参加した。2年生のみの参加状況としては、21.5%であった。	C	インターンシップの重要性を生徒に向けて発信する機会を新設する。進路実現のためにあらゆる機会に積極的に生徒が参加する必要性を説く。
	実学教育の推進	企業見学や社会人講師等を招いての実習・講演・授業等実施	●社会人講師等を招いての実習・講演・授業実施等（年間30回以上）	年間48回実施することができた。今年度は、観光科において、新たな取り組みをすることができた。	A	
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	地域との連携・協働の推進	学校運営協議会（コミュニティースクール）の積極的な運営	●「プロジェクト探究」における協働事業を実施する	「プロジェクト探究」の授業を協働事業として実施した。	A	高校生が地域の行事に参加してくれたことにより、活気あふれるものとなった。地域の方々と協働して運営することにより、生徒がコミュニケーション力を高め、様々な考えや意見をまとめることに役立っている。
		地域行事への生徒の参加・地域の人々を学校へ招いての行事等の実施	●地域行事への生徒の参加・地域の人々を学校へ招いての行事等の実施（年間10回以上）	部活動、学科単位で10回実施することができた。	A	
	地域に貢献する人材の育成	地域との連携事業実施 2年生インターンシップ・デュアルシステム参加生徒数	●インターンシップへの参加率を40%以上にする。	2年生の在籍が302名で、夏休み中のインターンシップ参加者が53名、冬休み中のインターンシップ参加者が12名であった。冬休み中のインターンシップには1年生が9名参加した。2年生のみの参加状況としては、21.5%であった。	C	
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育の推進	「人権教育推進プラン」に沿った取組の推進 人権講演会各学年1回以上 職員研修年間1回以上	●「人権教育推進プラン」に沿った取組の推進 人権講演会各学年1回以上 職員研修年間1回以上	2学期に奈良県女性センター男女共同参画いきいきサポーターチーム「いききサボ座」による校内人権啓発集会を全学年で開催。3学期に県教委特別支援教育推進室から講師を招き職員全体研修を実施できた。部内研修は、その都度頻回に実施できた。	A	生徒にとって新たな視点や観点・知見を学ぶ機会となり、人としてのあり方を学ぶ有意義な機会になっている。さらに継続して取り組んでいきたい。
	いじめの未然防止・不登校等への対策	「奈良県いじめ防止基本方針」「学校いじめ防止基本方針」にもとづく取組の徹底と定期的なアンケート実施	●「奈良県いじめ防止基本方針」「学校いじめ防止基本方針」にもとづく取組の徹底と定期的なアンケート実施(アンケート2回)	いじめに関するアンケートは1学期と3学期に実施し、アンケートの結果をもとに担当が聞き取りをし、事案の対応をした。	A	2学期もアンケートを実施し、早期発見、早期解決に努める。
		スクールカウンセラーとの連携（連絡会実施）	●スクールカウンセラーとの連携（コーディネーター会 年間6回)	1学期と2学期に連絡会を2回しか持つことができなかったが、SCとの情報交換は十分にできている。	C	生徒が抱える悩みや課題も多様化してきており、対処する教職員の負担も大きくなっているが、スクールカウンセラーとの連携により、対処することができている。人権教育においては、多様性を重視した取組が展開されている。
	特別支援教育の推進	定期的な特別支援教育推進委員会の開催による情報共有と個別的教育支援計画の作成	●定期的な特別支援教育推進委員会の開催による情報共有と個別的教育支援計画の作成(委員会開催による情報共有5回・個別的教育支援計画全員)	本年度委員会を4回開催し個別的教育支援計画を作成した。各クラスからの要望等による開催であり、定期的な開催には至らなかった。各学年のコーディネーターが学年内で担任等と連携し、要配慮生徒の把握に努めている。	A	定期的な開催を目指したい。各学年のコーディネーターがさらに学年内で担任等と連携し、要配慮生徒の把握に努めていきたい。
	多文化共生教育の充実	多文化理解のためのHRの展開	●多文化理解のためのHRの展開	各学期に各学年でHRを実施できた。2学期には上記記載の校内人権啓発集会(全学年)を実施できた。	A	各学年でHR展開前の事前研修会を確実に実施していきたい。校内人権啓発集会(全学年)も継続して実施していきたい。

### 3 評価結果の分析、今後の改善方策等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業と工業の専門性をさらに高め、より高度な知識や技術を身に付けることができる環境を整え、学力を充実させることにより、実社会で役立ち、社会に貢献できる人材の育成を促進する。</li> <li>・地域との協働事業を拡充し、生徒の豊かな人間性を醸成すると共に、自ら課題を見つけ、他者と協働して課題解決に取り組む姿勢を培う。</li> <li>・健やかな心身の育成のために、食育推進に継続して取り組むと共に、体育行事の内容を充実させ、日常的な健康指導を定着させる。</li> <li>・保護者アンケートの結果、「本校に入学させてよかった」割合が96.4%であった。学校への満足度が高いと思われるが、さらに充実した教育活動ができるように環境を整える。</li> </ul>
---